

筑後リバーズ逆転

日本旅行カップ第5回全日本選抜中学硬式野球大会

◇3月27、29日◇予選、準決勝ブロック、決勝◇
 沖縄「コザしんきんスタジアム」ほか◇15チーム
 筑後リバーズ(福岡)が、3年ぶり2度目の優勝
 を飾った。決勝の佐賀ビクトリー(佐賀)戦で、1
 点を追う7
 回、2死満
 塁から松門
 憲蔵外野手が走者一掃の左越え適時二塁打を放つ
 て逆転。守っては2投手が5回の1失点のみに抑
 え込み、3-1で勝利した。関東勢は羽田アンビ
 シヤス(東京)が唯一、準決勝ブロックに進出した。

近藤を援護しよう、チ
 ーム全体が奮い立った。
 救援した今村涼太郎が
 後続を抑えて最少失点に
 食い止める、最終回に
 味方打線が粘りをみせ
 た。2四球と犠打
 で2死一、二塁か
 ら井上隆誠捕手が
 右前打を放って満
 塁のチャンスを行
 出。続く松門が左
 中間に適時二塁打
 を放ち、一塁走者
 も本塁に駆け戻っ
 て一気に3点を奪
 った。あと1アウ
 トで敗戦の崖っぷ
 ちからの大逆転だ
 った。

最終回2死満塁
 筑後リバーズの選手た
 ちの思いが全日本選抜タ
 イトルを手繰り寄せた。
 佐賀ビクトリー戦の5回
 裏。ここまで被安打1の
 無失点に抑えていた近藤
 慶次郎投手が2死から連
 続四球と敬遠で満塁のピ
 ンチを迎え、押し出し四
 球で先制点を奪われた。
 決勝の先発という重圧と
 闘いながら力投してきた



予選ブロックから無敗で優勝した筑後リバーズ

◆全日本選抜予選ブロック◆

順	Aブロック	福 岡	宜野湾	館林慶友	勝一敗
1	福岡フェニックス		601	800	2-0
2	宜野湾ポニー	106		605	1-1
3	館林慶友ポニー	008	506		0-2
順	Bブロック	沖縄中央	将 門	羽 田	勝一敗
1	沖縄中央ポニー		807	1000	2-0
2	将門BBC	708		605	1-1
3	羽田アローズ	0010	506		0-2
順	Cブロック	佐 賀	江 東	沖 縄	勝一敗
1	佐賀ビクトリー		501	602	2-0
2	江東ライオンズ	105		1009	1-1
3	沖縄DBC	206	9010		0-2
順	Dブロック	久留米	羽 田	北 斗	勝一敗
1	久留米ベトリオス		201	403	2-0
2	羽田アンビシャス	102		1004	1-1
3	北斗BBC	304	4010		0-2
順	Eブロック	筑 後	小 平	京 都	勝一敗
1	筑後リバーズ		1400	1302	2-0
2	小平ポニー	0014		1505	1-1
3	京都ポニー	2013	5015		0-2

【注】アミ掛けが関東連盟代表

2001年(平
 13)に創立以降、
 福岡県南部のみや
 ま市を拠点に活動
 してきた。「明るく、楽
 しく」をモットーに、自
 らを厳しく律して技術や
 社会生活のルールやマナ
 ーの向上に努めている。
 仲間とともに野球に真摯

松門が走者一掃二塁打

羽田アンビシャスが
 「夏の全国制覇」へ手応え
 をつかんだ。予選ブロッ
 クでは初戦の北斗BBC
 (北海道)戦で増田滉介が
 先制の中越えランニング
 2点本塁打を放つなど、
 12安打で10得点を挙げて
 快勝。続く久留米ベトリ
 オス戦は惜しくも1点
 差で敗れたものの、関東
 勢として唯一、準決勝ブ
 ロックにコマを進めた。
 馬場奏人主将は「日頃
 の練習の成果をピンチや
 チャンスの時に生かすこ
 とができた。試合後半の
 粘りの弱さなどを修正し
 て、春季大会予選に臨み
 たい」と収穫を口にした。

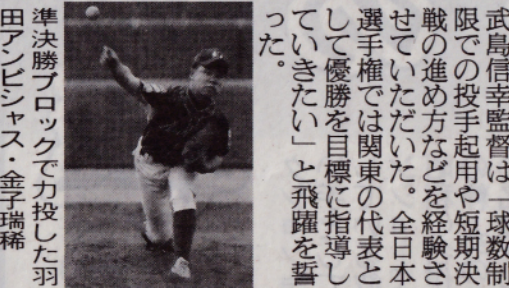
◆準決勝ブロック◆

チーム	佐 賀	福 岡	羽 田
佐賀ビクトリー		300	1104
福岡フェニックス	003		雨天中止
羽田アンビシャス	4011	雨天中止	
チーム	筑 後	沖 縄	久留米
筑後リバーズ		600	201
沖縄中央ポニー	006		602
久留米ベトリオス	102	206	

(しんし)に取り組む姿
 勢が、大舞台でも実力を
 発揮するチーム力につな
 がった。
 今大会は予選ブロック
 で京都ポニー、小平ポニ
 ー(東京)をいずれも5
 回コールドで退け、準決
 勝ブロックでも2連勝。
 同郷対決となった久留米
 ベトリオス(福岡)戦
 では5回に相手の失策絡
 みで勝ち越した1点を守
 り切って接戦を制し、昨
 年12月の全日本コトリ
 ーグ選手権を制した沖縄
 中央ポニー(沖縄)に完
 封勝ちした。
 5試合で計38得点4失
 点。チーム打率3割5分
 1厘の猛打を誇りつつ、
 接戦ではバットリリーを中
 心に堅実な守りで切り抜
 け、5投手でチーム防御
 率1・29をマークした。
 勝負どころで投打がかみ
 合う総合力でつかんだ
 「日本一」だった。

羽田アンビシャス夏へ手応え

関東勢唯一の準決勝進出
 準決勝ブロックは佐賀ビ
 クトリーから初回に3点
 を奪って先制しながら逆
 転負け。2戦目は雨天の
 ため中止と実力を十分に
 発揮できずに敗退した
 が、馬場主将は「普段戦
 うことができない九州の
 チームと対戦し、試合の
 進め方や声掛けなどが大
 変勉強になったという。
 昨年はSSKカップ関
 東地区秋季大会準優勝、
 全日本選手権ブロンコ大
 会優勝、全日本コトリ
 ーグ3位とシーズンを通
 して全学年の大会で上位
 入賞を果たした。さらな
 る進化を遂げて挑むのが
 夏の全日本選手権制覇。
 武島信幸監督は「球数制
 限での投手起用や短期決
 戦の進め方などを経験さ
 せていただいた。全日本
 選手権では関東の代表と
 して優勝を目標に指導し
 ていきたい」と飛躍を誓
 った。



◆表彰選手 ◇最優秀
 選手賞 松門憲蔵(筑後)
 ◇最優秀投手賞 近藤慶
 次郎(筑後) ◇殊勲賞
 田中玲央(佐賀)

選手の肩、肘検診
 ○：今大会では、中学球
 児の故障防止策として選
 手たちの肩や肘の検診を
 行った。日本ポニーベ
 スボール協会常務理事C
 MOで、館林慶友整形外科
 科病院の整形外科部長を
 務める古島弘三医師が診
 察に当たった。参加チ
 ームの多くの選手たちが受
 診し、その結果、投球数
 の調整や投球禁止の該当
 者はいなかった。



決勝で惜敗、準優勝の佐賀ビクトリー

優勝を目前に...
 佐賀ビクトリー 優勝
 を目前に悔し涙をのん
 だ。予選、準決勝ブロッ
 クともに無敗で決勝進
 出。5回裏に田中怜央が
 ボール球を見極めて押し
 出し四球で先制したもの
 の、最終回に2四球が絡
 んで3失点して逆転負
 け。準優勝に終わった。
 それでも今大会は5試合
 で計26得点10失点と攻守
 でバランスの整った戦い
 ぶり。夏の王座奪回へ収
 穫を手にした大会となっ
 た。